

ワクチン予防接種 確認書

本日接種するワクチンで予防できる感染症

- ☐ **猫ウイルス性鼻気管炎** (病原体: 猫ヘルペスウイルス1型)
くしゃみ・発熱・元気や食欲の低下に加え、目やにや目の赤みが出る結膜炎を起こし、特に子猫では重症化しやすい感染症です。
- ☐ **猫カリシウイルス感染症** (病原体: 猫カリシウイルス)
鼻水・くしゃみなどの風邪のような症状に加え、口の中に潰瘍(ただれ)がみられることもある感染症です。
- ☐ **猫汎白血球減少症** (病原体: 猫汎白血球減少症ウイルス)
伝播力の強いウイルス感染症で、発熱・嘔吐・下痢などを起こし、特に子猫では致死率が高い感染症です。
- ☐ **猫白血病ウイルス感染症** (病原体: 猫白血病ウイルス)
特に子猫がかかりやすく、免疫力の低下や貧血、リンパ腫などを起こし、長く感染が続くと数年以内に命に関わるが多い感染症です。
- ☐ **猫クラミジア症** (病原体: 猫クラミジア)
主に飛沫や接触でうつる病気で、特に1歳以下の若い猫でかかりやすく、目やにや赤みを伴う結膜炎を起こし、鼻水やくしゃみがみられることもあります。

ワクチン接種後の注意点および副反応について

- ☐ 本剤の投与後、まれに一過性の疼痛、元気・食欲の不振、下痢または嘔吐を示すことがあります。
- ☐ 過敏な体質の猫では、まれにアレルギー反応、またはアナフィラキシー反応〔ショック(虚脱、貧血、血圧低下、呼吸速迫、呼吸困難、流涎、ふるえ、けいれん、尿失禁等)〕が起こることがあります。アナフィラキシー反応(ショック)は、ワクチン接種後数分～60分以内に発現する場合があります。
- ☐ アナフィラキシーが発生した場合すぐに処置が行えるよう、可能であればワクチン接種後60分程度は安静にして様子を観察し、異常が認められたらすぐに病院で処置を受けられるようにしましょう。
キャリーの中に居ると様子がわからないことがあるので時々状態をチェックしましょう。
- ☐ その他の症状(顔面浮腫や嘔吐等)はアナフィラキシーより遅れて発現することがあります。
- ☐ ワクチン接種前・接種後は激しい運動やシャンプーなど体力を消耗したりストレスのかかることは避け、2～3日は安静にし、異常があればすぐに獣医師の診察を受けてください。また、真夏などの蒸し暑い時期は空調管理にも配慮してあげましょう。
- ☐ 本日のワクチン接種の内容およびリスク、接種後の注意点について説明を受け、その内容を確認いたしました。

記入日： 年 月 日

サイン： _____